

卒業論文

家族継承ではない家業継承とは何か

——その社会学的考察——

2017 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース  
社会学・地域福祉社会学専門分野

2021 年 1 月 提出

## 要約

本論文の目的は、継承がうまくいかず衰退傾向にある商店街において、「家族継承」という構造に着目して、実際に店に聞き取り調査をおこない、継承の可能性を広げていくことである。

最初に、本論文の目的や背景について論じている。商店街や継承といったキーワードから、「家族継承」が導かれた経緯を説明している。さらに、社会にも目を向けて、商店街の衰退や継承問題がいかに大きなものであるかを、データを提示しながら進めている。

2章においては、これまでおこなわれてきた先行研究について整理・吟味した上で、私の問題意識を論じている。先行研究の中心になるのは、新雅文（2012）の研究である。新は、商店街が衰退している要因の1つに、店の継承が血縁的な家族内のみでおこなわれてきた構造そのものをあげている。私が取りあげるのは、家族継承という構造が商店街の衰退要因であるか否かといった論点ではない。家族という枠にとらわれずに、血縁的に家族ではない人が継承に関わるケースにスポットをあてて、この継承パターンの全貌を明らかにし、可能性を探ることにある。継承といえば、家族継承が一般的とされているが、このような目新しい形の継承パターンが今後キーになるとを考えている。また2章ではほかにも、商店街の定義や構造、近代と近世における商家観の違いについても整理している。3章においては、主に定量的な視点から、商店街の衰退状況や継承の厳しい状況を捉えている。

4章においては、聞き取り調査の結果についてまとめている。今回、福津市の商店街沿いで小売業・飲食サービス業を営む店の方々、2人に聞き取り調査を実施した。2人はその店の3代目と次期4代目である。4代目の方は、初代から3代目とは血がつながっておらず、血縁的に家族ではないが、この店を受け継ぐことが決まっている次期継承者である。彼らには、それぞれの継承ストーリーや、家族ではない人が継承に関わるケースの難しさなどをざっくばらんに語ってもらい、それらを整理している。

5章は、これまでを踏まえた上で考察をまとめている。「家族継承ではない家業継承」とはいったいどのような継承なのか。その継承の可能性や問題点などを中心に考察している。また、一般的とされている「血縁的な家族継承」と、今回着目している「家族継承ではない家業継承」の2つのバランスをどのようにとっていくのが最適なのか、私なりに考えを主張している。

6章においては、本論文のまとめと今後の展望という形で結びとしている。

## 目次

1 はじめに	1
1.1 本論文の目的	1
1.2 商店街から家族意識への系譜	2
1.3 研究手法	5
2 先行研究の整理	7
2.1 商店街とは	7
2.2 商店街の構造	10
2.3 衰退の現状	13
2.4 近代と近世の商家觀	14
2.5 家族継承について	15
2.6 先行研究を踏まえた上で問題意識の整理	17
3 定量的なデータから見る全国と地方の商店街の現状	19
3.1 全国の中小事業主の現状	19
3.1.1 衰退のあり様	20
3.1.2 繼承・支援の実情	22
3.2 福津市の概要	24
3.3 福津市の中小事業主の現状	25
3.4 福津市商工会議所の取り組み	28
3.5 小括	30
4 現場のリアルな声	31
4.1 調査概要	31
4.2 家族継承ではない家業継承の全貌	32
4.2.1 家族で継承しないケース	32
4.2.2 原因と解決策	34
4.2.3 Nさんの決断—3代目から4代目へ	36
4.2.3.1 大将への想い	36
4.2.3.2 常連客・アルバイト従業員への想い	38
4.2.3.3 にぎやかに再建へ	39
4.2.4 大将の決断—3代目から4代目へ	40

4.2.4.1 Nさん・アルバイト従業員への想い	40
4.2.4.2 常連客への想いー 2代目から3代目の自身の経験から	41
4.2.5 家族継承ではない家業継承の課題	42
4.2.6 家族ではないけど家族	44
5 考察	46
5.1 血縁的な家族継承の問題と新たな対応策	46
5.2 『家族』継承—家族継承ではない家業継承	46
5.3 『家族』継承の可能性	48
5.4 「家族」継承と『家族』継承のバランス	49
6 まとめと今後の展望	51
文献	52
謝辞	53